

足立区立平野小学校
校長 小用 昇 様

足立区立平野小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 遠山 整一

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

- ・授業診断のために授業の様子を見ると、どの学年も落ち着いた学習環境で教育活動が行われている。授業規律も確立されており、児童が集中して学習に向かっている。
- ・普段の毎時間の授業のほかにスキルアップタイムや放課後補充教室を継続することにより、個別指導による基礎基本の定着が図られていることが、区の学力調査において平均を上回る結果に結びついているのであり、喜ばしいことである。先生方の努力に感謝したい。
- ・学力向上について、学校評価における肯定的評価が91.5%であり、保護者からも評価されていることがわかる。この結果が今後も継続することを期待する。
- ・教員が児童の目線に立ち、丁寧に話を聞くなど、児童一人一人を大切にされた指導がされている様子が感じられる。
- ・毎月の生活調べの様子から、特に朝食と起床時刻は定着が感じられる。しかし、就寝時刻については各家庭の生活リズムの多様化もあり、引き続き保護者に啓発していく必要がある。
- ・家庭学習は定着しつつある。今後更に保護者との協力体制を進めてタブレットの活用も含めた家庭学習の更なる定着を図っていく必要がある。
- ・年々若い教員が増えてきている。そのため教員の指導技術の更なる向上が課題であると感じる。教員同士が切磋琢磨し指導技術の向上を図ってもらいたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・給食費が10月より公費となったものの、教材費の未納の家庭が多数いることがわかった。人権上のこともあり、学校側は文書や電話でくり返し通知しているがなかなか改善できていないこともわかった。
- ・開かれた学校づくり協議会主催の家庭教育講演会への保護者の参加が少なく残念である。家庭でのしつけが大切であることの認識を広め、多くの保護者に関心をもってもらえるよう学校としても努力してほしい。
- ・特別支援学級が併設されていることは、通常級に通う児童にとっても様々な面で意義のあることであるが、特別支援学級の教室環境が良くないと感じる。各部屋が独立していないため隣で学習している声が漏れ聞こえており、落ち着いた環境が保証されていると言い難い。知的な障がいをもつ児童たちであるからこそ協議会として早急に改善するよう希望する。

3 その他

- ・今年度はコロナ禍前に完全に戻ったとは言えないが、運動会など大きな学校行事も行われここ数年と比べ、学校に活気が戻ってきたと感じた。次年度も実施方法を工夫しながら、様々な経験をさせて自己肯定感を高める教育活動を推進してほしい。